

平成29年9月25日

平成29年度 第1回学校関係者評価書

南アルプス市立若草小学校
校長 澤登 一浩

〔会議日時〕 平成29年9月11日（月）19:00～20:30

〔会議場所〕 若草小学校 校長室

〔出席者〕

・学校関係者評価委員5名

和田 則之さん（寺部自治会長 ・学校評議員）
村松 秀樹さん（社会教育委員 ・学校評議員）
松田 結香さん（主任児童委員 ・学校評議員）
林 正幸さん（PTA会長 ・学校評議員）
斉藤 泉 さん（PTA副会長 ・学校評議員）

・学校側3名

澤登 一浩（校長） 望月 政幸（教頭） 内藤 大輔（主幹教諭）

1 学校からの説明事項

第1回学校評価、各アンケートの集計結果について

- ①児童アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について
- ②保護者アンケート内容（施設）及び集計結果・考察・改善策について
- ③教職員アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について

2 意見交換

- (1) 夏のラジオ体操は中学生が中心になり、上級生がリーダーシップをとりながら、行っている。また南アルプス市の球技会も若草地区は出ているが他の地区はあまり参加をしていない。保護者や役員も大変であるが、子どもは育っている。
- (2) 上村地区（鏡中條）では子どもが主体で夏祭りを行っている。昔はおばけやしき等も行われた。今はやきそば等を中学生が主体でつくっている。子どもの有用感やリーダー性を伸ばす行事は大切にしていきたい。
- (3) 見守りたすきが十分浸透しており、知らない子もあいさつしてくれるようになった。あいさつの輪が地域に広がってきた。
- (4) 一時停止など子どもが守らず、ヒヤリとしたことがある。歩行者優先ではあるが、子どもにも再度ヘルメット着用や横断の仕方等の交通ルールを徹底させてほしい。

- (5) 家庭教育について、子どもたちは宿題を学習ばかりでなく、家の手伝い等も入れ、各家庭で工夫しながら、取り組む大切さが話し合われた。
- (6) 日本人は絵を見ると、知っている情報のみを話す、フランス人は作品に対する思いや感じたことを述べる授業をみた。若草小でも自由に感じたことを話せる「何を言っても○」といった授業づくりを進めてほしい。

※学校関係者評価委員より、学校評価結果について意見をいただいた。意見をもとに今年度は以下の重点目標達成に向けて努力していくことが確認された。

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・児童会活動の取組を活かし、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・児童にしっかりと目を向け、適切な支援や助言を個別に行う。

○PTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、今まで以上にあいさつ運動の取組を進めていく。
- ・わかくさ見守り隊の推進とともに、保護者や地域にあいさつ運動を広げる。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・校内研究と連動した取組の中で、「学び合い」の場面における、主体的な学び、対話的な学びが行われるような授業を意図的に仕組む。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、保護者との連携を取るとともに、児童の習慣化につなげる。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を基礎・基本の定着も踏まえながら工夫する。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・普段から学級の子どもの様子に気を配り、Q U検査を活用するなど、いじめの早期発見、早期解決の取組を行う。また必要に応じてお便りや部会の中で保護者に伝えていく。
- ・いじめ撲滅宣言などの取組を、児童会が中心となり全校で進めていく。(生徒指導とも連動)

○施設・設備について適切に対処していく。

- ・安全点検等を適切に行い、すぐに修繕できる箇所、また予算を計上し時間や費用がかかるもの等、その必要感に応じて順位づけを行い、適切に対処していく。市教委等にも評価結果を届け、トイレや体育館等は要求を続けていく。